



明和病院だより



2019年1月号

(1) 特任院長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。



振り返ってみますと昨年も相変わらず自然災害に見舞われた年でした。6月には大阪府北部地震があり、7月の西日本豪雨では死者200人以上、9月の25年ぶりという“非常に強い”台風では本院でも停電、正面玄関、建物窓ガラスの破損等の被災がありました。幸い大過なく過ごすことができましたが、自然災害にも生き残れる病院が求められています。

“最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。”という言葉があります。ダーウィン自身の言葉ではないようですがその進化論の主旨を示すものとして特にビジネスの分野ではしばしば引用されています。

医療を取り巻く環境は大きく変化し、病院経営はますます厳しくなっています。まず疾病構造と患者層の構成は大きく変化してきています。かつて日本人の死亡原因の一位であった結核は100分の1に低下し、他方癌による死亡は群を抜いてトップとなっており日本人の2人に1人が癌に罹患し3人に1人が癌で死亡する時代となっています。その中でも胃癌、肝癌は減少、肺癌、大腸癌、膵癌が増加しています。また団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる2025年には高齢化率が30%に達し、医療経済の逼迫は必至であり、それらに伴う介護と医療サービスの変化・拡充が求められています。

高度ながん診療を提供しつつも極度に専門分化することなく地域に密着した基幹病院である明和病院は医療環境の変化の影響をストレートに受けざるを得ません。他方それに適切に対応することができれば、より存在意義を高めることができ、困難を利点とすることが可能です。平成26年の明和キャンサ

ークリニック開設とPETおよび、高精度放射線治療装置の導入、呼吸器内科・外科の新設、腫瘍内科・化学療法の開設拡充、さらに予定されているMRIの更新、温熱療法の導入は医療ニーズの高いがん診療体制を強化するものです。また地域包括ケア病棟、訪問看護センターの開設も医療機能の分化、強化、連携に対応したものであり病院としては求められる医療ニーズにハード面での対応を着実に進めてきています。しかしながらこれらの対応が結果を出すためには、それらを有効に活用し、効率的に運用することが求められます。厳しい医療環境の変化を転じてより存在意義のある病院として成長できるようにそれぞれの部署におかれまして、皆様方の意欲的な取り組みが必要となります。まさに“変化できるものが生き残れるものである。”

本年も患者様に信頼され、最善の医療を提供し、地域になくしてはならない病院と評価されるように皆様とともに進んでいきたいと思います。

本年が良き年となりますことを願いつつ新年のご挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願い致します。

特任院長 大崎 往夫

(2) 健康講座のお知らせ ※無料、参加自由

- ・演題：それって、ほんま？
「インフルエンザ薬 飲みますか！！」
- ・講師：非常勤医師 谷田 憲俊
- ・日時：1月17日(木) 14:00~14:50
- ・場所：明和病院 南館5階 明和ホール東



(3) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演題：一緒に考える前立腺癌の話
- ・講師：泌尿器科 部長 善本 哲郎
- ・日時：1月17日(木) 14:00~15:30
- ・場所：南甲子園公民館(Tel.49-4741) ※無料(参加自由)



(4) 患者さん向けお知らせメールサービス開始のお知らせ

平成31年早春にて患者さん向けお知らせメールサービスを開始します。メールサービスでは、サービスご登録患者さんに予約お知らせ・予約診療状況のお知らせなどの情報を配信いたします。お申込みは、初診受付またはブロック受付まで。

(編集発行人 事務部長 沖田 明弘)